

令和5年度 研究紀要

各教科等の資質・能力の育成を目指した学習評価の充実(2年次/2年計画)

－ 学習集団に応じた単元シートの活用をとおして －



宮城県立石巻支援学校

〒986-0861 宮城県石巻市蛇田字新立野410-1

TEL 0225-94-0202

目次

～研究紀要に寄せて～

《研究の概要》

I 研究主題、副題	研究紀要- 1
II 主題設定の理由	研究紀要- 1
III 副題の「単元シート」について	研究紀要- 2
IV 研究目標	研究紀要- 3
V 研究の内容と方法	研究紀要- 3
VI 研究の実際	研究紀要- 5
VII 研究のまとめ	研究紀要- 16

研究同人

《資料》

- I 学部研究の単元シート(小学部・中学部・高等部)
- II 研究通信(「一日一歩」No.1～13)

～研究紀要に寄せて～

校長 田中 晃

本校では、「安全・安心な教育環境の中で、一人一人の障害の状態及び特性等に応じた適切な教育を、地域の教育資源なども有効に活用しながら行い、健康で、明るく、人間性豊かな知、徳、体の調和のとれた児童生徒を育成する。」を学校教育目標としています。そして、今年度は特に大事にしたい点の1つとして、「自立に向けた学習指導の充実」を挙げ、職員が共通理解・共通目標のもと指導実践に当たることとしました。具体的には、①新しい学習指導要領を読み込み内容をしっかりと押さえた指導 ②児童生徒の学びを支える教師の専門性の向上 ③学部間の途切れのない計画的で継続した指導です。これらを推進するに当たって、本研究は大きな役割を果たしてきました。

本研究は2年計画の2年目に当たります。本校では以前より共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの推進を念頭に、新しい学習指導要領の完全実施に向けて校内研究を中心として準備して参りました。それを素地として、昨年度は、研究副題を「目標設定から学習評価まで見通して作成する単元シートの活用をとおして」と設定し、実践しました。各単元で育成する資質・能力を整理するための「単元シート」を活用して授業実践することで、その有用性や改善点を検証しました。「単元シート」を活用することで、各教科の目標や内容、評価の場面や方法を具体的にできるという有用性を確認することができました。その反面、より充実させるためには評価欄を含め、どの学習集団でも活用できる単元シートの工夫・改善が必要であるということから、今年度の研究主題は変わらず、副題を「学習集団に応じた単元シートの活用をとおして」とすることとしました。

今年度も「単元シート」を活用した授業実践を中心として研究を進めて参りました。これまでの単元シートをベースに、より活用しやすい単元シートの工夫・改善を行い検証しながら授業実践を重ねて参りました。「単元シート」を活用することにより、TT や学部間の共有や協同による授業づくりに有効でした。その中で、特別支援教育の経験の長い教師は、これまでの経験を整理したり、経験の浅い教師にとっては授業の組み立て方を理解したりする上でとても役立ちました。授業の「目標」「内容」「手立て」「評価」が一目で分かる「単元シート」は授業を作り、実践する教師にも参観する教師にとっても分かりやすいツールとなり、研究授業やその後の検討会で大いに活用されました。そのような実践の積み重ねの中で、「単元シート」に様々な工夫が見られました。今後はそうした工夫を教師間でさらに共有し活用できたらと考えております。

研究を進めるに当たり、学校全体を先頭に立ってリードしていただいた研究主任をはじめ研究部の先生方のご尽力に心から敬意を表します。今年度の取組が今後も生かされ、先生方の糧となり生きていくことを心から願っております。

I 研究主題・副題

各教科等の資質・能力の育成を目指した学習評価の充実（2年次／2年計画）

－ 学習集団に応じた単元シートの活用をとおして －

II 主題設定の理由

1 特別支援教育の動向

共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築の推進に伴い、連続性のある「多様な学びの場」における児童生徒の学びを確保していく観点から、特別支援学校においては、小・中・高等学校との教育課程の接続や、各教科等の指導内容の整理が求められている。

このような中、学習指導要領が改訂され、各教科等の目標及び内容が、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。さらに、各教科に係る見方・考え方は、小学校等の教育と基本的に同じとし、知的障害のある児童生徒のための教育において、各教科等のどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確に示され、同時に学習評価の充実も求められている。

2 学校の教育目標の具現化

本校は教育目標を「安全・安心な教育環境の中で、一人一人の障害の状態及び特性等に応じた適切な教育を、地域の教育資源なども有効に活用しながら行い、健康で、明るく、人間性豊かな知、徳、体の調和のとれた児童生徒を育成する。」と設定している。

平成28年12月中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では、これからの教員に求められる資質・能力の向上に向けて「学校教育目標や育成を目指す資質・能力を踏まえ、『何のために』『どのような改善をしようとしているのか』を教員間で共有しながら学校組織全体として指導力の向上を図っていけるようにすることが重要」と述べている。

校内研究において、題材や単元など内容や時間のまとまりの中で育成する資質・能力を明確にした授業改善と学習評価を行い、知・徳・体の調和のとれた児童生徒の育成を目指すことが、教育目標の具現化につながると考えた。さらに、学校組織全体として取り組むため、日々の授業実践を軸にした全員参加型の共同研究を目標に、校内研究を推進したいと考えた。

3 昨年度の研究

本研究は2年計画の2年次であり、昨年度は研究副題を「目標設定から学習評価までを見通して作成する単元シートの活用をとおして」と設定し、実践に取り組んだ。単年で育成を目指す資質・能力を整理するための「単元シート」を、指導計画及び反省を記載する資料として、教員一人一人が授業実践に活用することで、その有用性や改善点を検証することができた。

実践後に実施した教員対象の意識調査からは、教科等を合わせて指導する単元において、以前より各教科の目標や内容を具体化できることで、評価場面や評価方法も具体的に考えられることが分かった。さらに、自由記述欄には、「単元シートの様式について、見やすく評価しやすい形が見えた。」という意見があり、単元シートの個別の目標と評価を記録する欄の使い方を工夫することが、学習評価の充実につながるのではないかと、という気付きを得ることができた。

そこで今年度は、昨年度の取組を土台とし、各教科等の資質・能力の育成を目指した学習評価の充実に向けて、教員一人一人が協働して授業実践に取り組む中で、学習集団の実態や指導の形態等に応じて単元シートの作成や活用について工夫・改善することが必要であると考え、本主題を設定した。

Ⅲ 副題の「単元シート」について

単元シートは、題材や単元の指導に当たり、本校の教育課程と学習指導要領で示された資質・能力の関連を整理するために作成する資料である。以下のA～Gの7つの項目を記載する（図1）。

【単元シート】		指導の形態	学部 学年	時数	記入者(TT)																																																																																																												
<table border="1"> <tr><th colspan="4">単元の目標</th></tr> <tr><td colspan="4" style="text-align: center;">A 単元の目標</td></tr> </table>			単元の目標				A 単元の目標				<table border="1"> <tr><th colspan="4">主な教科等の育成を目指す資質・能力</th></tr> <tr><td>知</td><td colspan="3" rowspan="3" style="text-align: center;">B 単元で育成を目指す資質・能力</td></tr> <tr><td>思</td></tr> <tr><td>主</td></tr> </table>			主な教科等の育成を目指す資質・能力				知	B 単元で育成を目指す資質・能力			思	主																																																																																										
単元の目標																																																																																																																	
A 単元の目標																																																																																																																	
主な教科等の育成を目指す資質・能力																																																																																																																	
知	B 単元で育成を目指す資質・能力																																																																																																																
思																																																																																																																	
主																																																																																																																	
<table border="1"> <tr><th>時</th><th>日付</th><th>主な学習内容</th><th>○手だて・留意点</th><th>教科</th></tr> <tr><td colspan="5" style="text-align: center;">C 学習計画</td></tr> <tr><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>			時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科	C 学習計画																																			<table border="1"> <tr><th>個</th><th>教科</th><th>本単元における個別の目標</th><th>評価</th><th>メモ欄(配慮・具体的な姿など)</th></tr> <tr><td>知</td><td> </td><td> </td><td> </td><td rowspan="3" style="text-align: center;">E メモ欄</td></tr> <tr><td>思</td><td colspan="3" rowspan="3" style="text-align: center;">D 本単元における個別の目標及び評価</td></tr> <tr><td>主</td></tr> <tr><td> </td></tr> <tr><td>知</td><td> </td><td> </td><td> </td><td rowspan="3"> </td></tr> <tr><td>思</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td>主</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td>知</td><td> </td><td> </td><td> </td><td rowspan="3"> </td></tr> <tr><td>思</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td>主</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td>知</td><td> </td><td> </td><td> </td><td rowspan="3"> </td></tr> <tr><td>思</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td>主</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td>知</td><td> </td><td> </td><td> </td><td rowspan="3"> </td></tr> <tr><td>思</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> <tr><td>主</td><td> </td><td> </td><td> </td></tr> </table>			個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)	知				E メモ欄	思	D 本単元における個別の目標及び評価			主		知					思				主				知					思				主				知					思				主				知					思				主			
時	日付	主な学習内容	○手だて・留意点	教科																																																																																																													
C 学習計画																																																																																																																	
個	教科	本単元における個別の目標	評価	メモ欄(配慮・具体的な姿など)																																																																																																													
知				E メモ欄																																																																																																													
思	D 本単元における個別の目標及び評価																																																																																																																
主																																																																																																																	
知																																																																																																																	
思																																																																																																																	
主																																																																																																																	
知																																																																																																																	
思																																																																																																																	
主																																																																																																																	
知																																																																																																																	
思																																																																																																																	
主																																																																																																																	
知																																																																																																																	
思																																																																																																																	
主																																																																																																																	
<table border="1"> <tr><th colspan="4">単元の反省</th></tr> <tr><td colspan="4" style="text-align: center;">G 単元の反省</td></tr> </table>			単元の反省				G 単元の反省				<table border="1"> <tr><th colspan="4">学習評価</th></tr> <tr><td>知</td><td colspan="3" rowspan="3" style="text-align: center;">F 学習評価</td></tr> <tr><td>思</td></tr> <tr><td>主</td></tr> </table>			学習評価				知	F 学習評価			思	主																																																																																										
単元の反省																																																																																																																	
G 単元の反省																																																																																																																	
学習評価																																																																																																																	
知	F 学習評価																																																																																																																
思																																																																																																																	
主																																																																																																																	

図1

A 単元の目標

教育課程を基に設定する。Bを踏まえて改善点があれば記載する。

B 単元で育成を目指す資質・能力

学習指導要領で示された目標や内容を踏まえ、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」の三観点で設定する。AとBの関連を矢印で整理する。なお、AとBの関連は、教育課程の改善を進めながら整理しているところである。

C 主な学習活動

教育課程の学習活動を基に、BやDなどを踏まえて、教員間で協働して作成する。

D 本単元における個別の目標及び評価

Bを踏まえ、児童生徒の当該段階¹に応じた目標を設定する。個別の指導計画との関連を図り、同時に評価も記入する。

E メモ欄

実践をしながら、目標達成に向けた手立てや児童生徒の具体的な様子などを記録する。

F 学習評価

BやDに基づいて、単元や題材において何が身に付いたか三観点で評価する。Gの根拠とする。

G 単元の反省

Fを踏まえ、学習内容・指導時数・指導形態などの視点から単元の指導を振り返る。必要に応じて、教育課程の改善につなげる。

1 知的障害者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の各教科は、児童生徒の障害の特性を考慮して、内容を学年別に区分せず、小学部3段階、中学部2段階、高等部2段階で示している。

IV 研究目標

学習指導要領において示された各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえ、教員間で協働して授業実践と学習評価の充実を図る。

V 研究の内容と方法

1 研究の内容と方法

(1) 授業研究（各学部）

- ・教員一人一人が「単元シート」を活用した授業実践に参加する。
- ・教員一人一人が一単位時間の流れを記載した「授業シート」の作成に参加し、学部内外の授業実践を共有する。
- ・各学部において、単元シートを活用した研究授業（事前検討会、事後検討会を含む）を行う。その際、指導の形態や児童生徒の実態等を踏まえ、単元シートを活用しやすく工夫する。
- ・各学部から一実践を全校研究授業として設定し、他学部の教員も参観できるようにする。
- ・授業参観者は「Thank you シート」に単元シートや授業の感想等を記入し、授業者にフィードバックする。

(2) 校内研修・調査分析・環境整備（研究部）

- ・研究内容の理解や単元シートの活用に関する校内研修を行う。また、学部研究の取組をまとめて発表を行い、全体で共有できるようにする。
- ・教員対象の意識調査（事前、事後）を行い、結果を分析・考察する。
- ・校務システムを活用して、授業実践の資料や計画を共有する。
- ・研究通信を発行し、校内研究に関する様々な情報や各学部の取組などを共有することで、教員一人一人が校内研究に参画する雰囲気を醸成する。
- ・職員用掲示板や研究資料保存用の本棚を整理・活用し、校内研究に関する情報を共有する。

2 研究計画（2年次／2年計画）

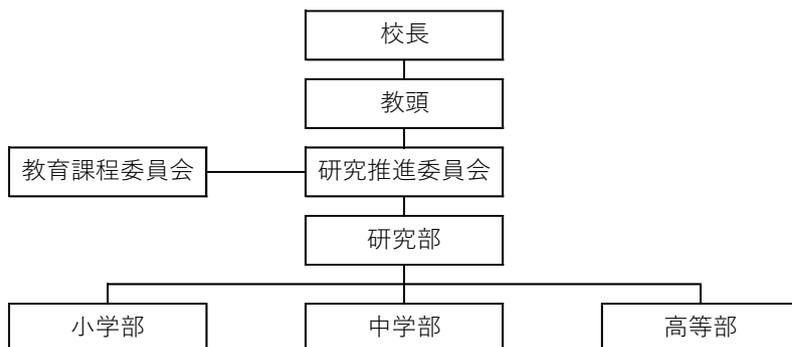
月	校務部会	研修の日	活動内容	研究推進委員会
4	①4日(火)		研究内容・計画の確認、全体会の準備	12日(水) 研究内容・方法の確認
	②20日(木)		意識調査の内容検討・準備	
5		①8日(月)	第一回校内研究全体会	
		③31日(水)	授業実践の計画作成	
6		②13日(火)	校内研修「研究内容の詳細」(学習評価について)	
7	④4日(火)		授業者実践の計画作成、学部研究授業の運営	
		③10日(月)※ ④20日(木)	校内研修「学部研究授業の詳細」(各学部) 学部研究授業の運営、次年度の方向性確認	
8		⑤21日(月)※	指導主事訪問研究授業事前検討会 (各グループ)	25日(金) 中間のまとめ
		⑥31日(木)	学部研究授業の実施状況確認	
9		⑤27日(水)	指導主事訪問研究授業事後検討会 (各グループ)	
		⑦28日(木)	学部研究授業の実施状況確認	

10		⑥11日(水)※	学部研究授業事前事後検討会(各学部)	
11	⑧1日(水)		学部研究授業の実施状況確認	
		⑦6日(月)※	学部研究授業事前事後検討会(各学部)	
12	⑨30日(木)		意識調査の内容検討・準備準備	
	⑩13日(水)		取組の反省, 意識調査実施・集計	
1	⑪20日(水)		研究紀要作成・次年度の研究テーマの確認	
	⑫30日(火)		学部研究授業のまとめ・全体会の準備	22日(月) まとめと次年度提案
2	⑬26日(月)		研究紀要発送準備	
		⑨29日(木)	校内研修「学部研究の共有」 第二回校内研究全体会	

3 研究構想図



4 研究組織



VI 研究の実際

VI-I 授業研究（各学部）

1 全体の取組

単元シートを活用した実践は以下のとおりである。各種研修の研究授業で学習指導案を作成して指導を行った学年では、単元シートを作成していない場合もある。これは、単元シートに学習指導案の内容が簡潔に盛り込まれる形式になっているためである。

(1) 実践数

単元シートを活用した総実践数は13（小学部6、中学部3、高等部4）であった。実践した指導の形態や指導内容は、各教科等を合わせた指導（遊びの指導、生活単元学習、作業学習）が9、教科別の指導が4であった。

(2) 実践の割合

単元の指導に当たる教員全員がいずれかの実践に共同で取り組むことを目標にした。実践率は100%である。

2 小学部の取組

(1) 単元シートを活用した実践

各学年が単元シートを作成して研究授業に取り組んだ。実践した指導の形態や指導内容は、実践資料のとおり各教科等を合わせた指導が5実践、教科別の指導が1実践であった。

(2) 学部研究授業（訪問学級）

① 研究授業の概要

訪問学級には、第1学年の女子1人、第3学年の男子1人、第5学年の女子1人の計3人が在籍している。今回の研究授業は、第5学年の女子1名を対象に行った。生活単元学習「夏の暮らし」の題材における実践である。題材の目標や育成を目指す資質・能力、学習計画等は単元シート（資料編「実践資料P.17、18」）に示す。9月8日に訪問児童の自宅で研究授業を行った。研究授業の目標や学習内容等は授業シート（資料編「実践資料P.19、20」）に示す。

② 事前検討会

9月4日に事前検討会を行った。研究部より実践の様子を動画撮影し、事後検討会で視聴することを確かめた上で、授業者が単元シートと授業シートについて説明した。児童の実態から自立活動の目標と主な教科等の育成を目指す資質・能力を関連付けて目標を設定し、手立てを講じ、学習評価につなげていくことを伝えた。また本校の教育課程において本単元で育成を目指す資質・能力に算数は設定されていないが、児童の実態と訪問指導という学習環境から、現在の学習で大切に育みたい算数の資質・能力を個別の目標に設定したことを共通理

解した。その後、質疑・応答を行い、児童の実態や教材の使い方について確認し、より具体的な授業のイメージを授業者と参観者で深めた。

③ 研究授業

本時の授業は、単元全体9時間のうち8時間目である。これまで学習してきた中から児童が好きな歌や活動を選択する場面を作り、自分から関わろうとする動きを引き出しながら授業を展開した。好きな歌を選ぶ場面では、2つのタブレット端末の画面から、好きな方に手を伸ばして選び、手首に鈴を付けて、笑顔で繰り返し鳴らすことができた。レインスティックと傘のミニプラネタリウムの2つを提示すると、傘に視線をとどめて、最後には手を伸ばすことで、気持ちを表現して教師に伝えることができた。傘の光が消えると見上げてゆっくりと手を伸ばし、感覚を協応しながら捉えようとしていた。カウントダウンの後に点滅パターンが変化したり、消灯したりすると、声を出しながら笑顔で楽しんでいた。制作活動では、素材や道具の感触や質感、音などを感じることができるよう働き掛けた。児童は、手を伸ばしてカスタネットばさみを選び、笑顔で繰り返し手を動かして折り紙を切るなど意欲的に取り組むことができた。

④ 事後検討会（資料編「研究通信No.12」）

10月11日に、授業の様子を全校で動画視聴した。授業者から児童の実態や教材の工夫などの説明、単元シートと動画を関連付けながらの実践の紹介を行った。その後、全校で事後検討会を実施した。

事後検討会の主な内容

授業者から自評
<ul style="list-style-type: none"> ・光などの視覚、楽器の音や振動の刺激を調整しながら、視覚、触覚、聴覚の感覚の状態やその活用の仕方を探った。そうしながら、繰り返し働き掛けを重ね、次第に働き掛けを心地よく受け止めることができるようになったら、光を感じながら教材を目で追ったり、手を伸ばしたりという動作を促すことができるようにしたいと思った。 ・評価するためには評価基準があることで、活動も働き掛けも明確になり、とてもスムーズに取り組むことができた。 ・メモ欄に記録した内容をそのまま個別の指導計画の手立てや評価に反映させることができ、大変良かった。 ・今後は、今回作成した単元シートに変更点や改善点を朱書きしながら訪問指導で行った教科指導を、教育課程に蓄積していけると良い。
本時の授業について意見交換
<p><小学部から></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本児の心の動きを丁寧に受け止めようとする先生の意志が教材、教材提示の工夫、言葉掛け、歌い掛け等、全てにしっかりと貫かれていること、その継続が「笑顔で顔を向ける」ような関わりの広がりにつながっていると感じた。3本のビデオと単元シートは、学校の大きな財産・宝だ。毎年、6月あたりに全校で見たい。 ・教材・教具の工夫が参考になった。 ・教材の提示の仕方、反応の待ち方、促し方、切り替え方、どれもが児童中心に行われているからこそ、児童も信頼して、意思を表出することができている。 <p><他学部から></p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問という限られた時間を大切に過ごすことが重要である。少ない時間の中でも丁寧に関係性を築いていくことで児童の良さを引き出すことができる。 ・ミニプラネタリウムに注意を向け続けたり、繰り返し笑顔になったりするなど準備した教材の工夫と先生の関わりがとてもすばらしいと思った。訪問指導ということで制限が多い中、児童

の実態に合った教材を作ることはとても大変だと思うが、段階に応じて自分も教材の工夫を生徒に合わせてやっていきたいと思った。

- ・訪問指導の様子を見る機会がほぼないところ、今回見せていただき大変勉強になった。訪問指導という限られた環境の中で、その子のどの部分に迫りたいのかを考えて、そのために教材・教具の工夫、そして何よりも一回一回の訪問指導の機会を大切にして「この先生とだったら」という信頼関係を築くこと、御家族の状況を考えた授業内容などなどたくさん勉強になった。

(3) 学部実践のまとめ (成果○、課題▲)

単元シートを活用した実践や意識調査(資料編「研究通信No. 21、22」)から、成果と課題を以下のとおりまとめる。

- 単元シートや授業シートを活用した授業実践が定着しており、教師にとって取り組みやすい。そのため児童の目標や評価がより明確になっている。
- 個に応じた教材の工夫を行うことで、児童一人一人の学習目標の達成につながっている。
- ▲教育課程における単元の目標は、学年によって1～3段階が設定されているが、児童の実態に応じて個の目標を柔軟に変える必要がある。
- ▲評価場面と方法を明確化することに課題がある。単元シートを活用した具体的な評価方法について、効果的な実践を共有していくことが大切だと考えられる。

3 中学部の取組

(1) 単元シートを活用した実践

今年度は学習集団に応じて単元シートを活用することを念頭に置き、作業班と自立活動班などの学習集団で実践に取り組んだ。作業班は工芸班と木工班の二つであり、自立活動班は音楽で実践を行った。

(2) 学部研究授業 (木工班)

① 研究授業の概要

1年生から3年生までの生徒で構成されている学習集団であり、男子10人、女子1人、計11人である。うち1人が肢体不自由等の障害を併せ有している。作業学習「販売品を作ろう」の単元における実践である。単元の目標や育成を目指す資質・能力、学習計画等は単元シート(資料編「実践資料P. 21」)に示す。11月9日に、研究授業を行った。研究授業の目標や学習内容等は授業シート(資料編「実践資料P. 22」)に示す。

② 事前検討会

11月2日に事前検討会を行った。初めに、授業者が単元の目標や育成を目指す主な資質・能力、本時の学習内容について説明した。その後、単元シートを用いて学習評価を充実させるために工夫した点について共有した。今回は本単元における個別の目標について、本時に評価する項目について網掛けをして示している。質疑・応答では、授業シートでも、評価の場面を共有できるような示し方や目標の具体性が評価につながることに意見が出された。また、「主な教科等の育成を目指す資質・能力」との関連や次年度の教育課程への反映のさせ方についても話し合われた。

③ 研究授業

桜の枝を切り、フルーツの模様に絵付けをしてフルーツストラップを製作した。学習の導入では、本時の作業内容と作業時間を示し、見通しが持てるようにしてから自分で道具を準備するようにした。展開では、穴開け班、色塗り班、模様描き班の三つの工程に分かれて活動した。生徒は作業の工程に合わせ、ボール盤などの機械、のこぎりや筆などの道具を使って前向きに作業に取り組んでいた。

④ 事後検討会

1月9日に中学部において事後検討会を行った。授業者からの自評を受けて、評価の場面や視点を交えながら本時の授業について話し合った。

事後検討会の主な内容

授業者から自評
<ul style="list-style-type: none"> ・自分が取り組んでいることが、製品につながっていくことが分かるように、導入で今後も継続して伝えるようにしたい。 ・生徒の活動場面で評価するようにしていた。 ・振り返りの場面では、生徒が振り返りの発表をした後で教師がその生徒ができるようになったことなど（評価）を詳しく伝えるようにした。
本時の授業について意見交換
<ul style="list-style-type: none"> ・「穴開け班」がボール盤で木材に穴を空けるときは、生徒自身が左手でペンチを使って木材を固定し、右手でレバーを下ろすなど、高度な活動を行っていた。 ・「色塗り班」の生徒はこれまでの活動の経験から見通しを持てるようになっており、落ち着いて作業に取り組んだり、はみ出さないように気を付けて色を塗ったりする姿が見られた。 ・「模様描き班」の生徒には、実物の手本を用意して作業中に見比べるようにすることで教師の支援を減らしても活動できるようになった。 ・各班のグルーピングに工夫を感じる。 ・単元シートの「本單元における個別の目標」について本時の評価に関わる部分に網掛けがあることで、授業をするときに念頭におくようになる。達成できたこと、できなかったことがはっきり評価できるようになった。単元の途中からステップアップするのも分かりやすい。 ・「本單元における個別の目標」について、例えば「木片にむらなく色を塗ることができる。」という目標には幅がある。どの程度できているかの達成度は授業を見ないと分からない。適切に評価するためには、実際に授業を見ることが大事。 ・まだうまくできない点についてどんな手立てが考えられるか、いろいろとアイデアが出てきてよいと思った。 ・振り返りで担当の教師からの評価ややったことの説明があることで、それぞれの様子が伝わるのが良いと思った。発表している本人にとっては励みになるし、聞いている生徒にも前向きな影響がある。 ・教師が個別の目標に照らし合わせて評価していて、意識しているのが分かった。 ・授業者の先生方が主担当の生徒の個別の目標をしっかりと把握して指導に当たっているからこそ、事後検討会でそれぞれの生徒の本時の評価、またはこれまでの変容についての評価を聞くことができた。

Thank youシートの主な意見

他学部から
<ul style="list-style-type: none"> ・単元シートに「重点評価観点」があることで、教師側の評価への意識が高まると思った。 ・振り返りの時間が自己評価につながっていて良かった。 ・生徒が一人ずつ前に立って評価を受けるのは、生徒の達成感が非常に得られて良いと思った。 ・「販売品を作ろう」の単元の目標となると、指導計画のところも年間ではなく、8～12月の計画で作成すると良いのではないか。 ・生徒に先生からの評価を感じてもらうのがとても大切だと思う。言葉での評価だけでなく、目に見えるが良いと思った。

(3) 学部実践のまとめ（成果○、課題▲）

学習集団に応じた単元シートを活用した実践や意識調査から、成果と課題を以下のとおりまとめる。

- 育成を目指す資質・能力を意識しながら単元の学習目標を設定する意識が高まった。
- 単元シートや授業シートの形式を工夫することで、学習評価につながりやすくなった。
- 単元ごとに単元シートを作成することは確かに大変ではあるが、作成することによって教師側の思考を整理することになっている。
- 生徒の学びの姿や学習評価の記録を教員間で共有することができた。
- ▲評価する場面や方法を明確にして授業実践を行うことが必要。
- ▲授業研究では、単元シートの右側の部分（目標、評価）について検討するが、普段は全てできているとは言えない。
- ▲授業によって、単元シートを活用して個々の評価を充実させることに課題が残った。

4 高等部の取組

(1) 単元シートを活用した実践

○各学年1実践を基本とし、それぞれの単元シートに高等部教員全員が共同して取り組んだ。実践内容は次の通りである。なお、農芸班の作業学習を学部研究授業とし、全学部に公開した。

- ・1学年：生活単元学習「校外学習」
- ・2学年：美術「造形作品を制作しよう」
- ・3学年：国語「いろいろな言葉に親しむ ～詩と俳句～」
- ・農芸班：作業学習「作業製品バザーに向けて～小松菜の種をまこう～」

(2) 学部研究授業（農芸班）

① 研究授業の概要

本校の高等部では進路希望別にA・B・Cの3つの教育課程に分かれており、生活介護等を希望する生徒はA課程、就労継続支援B型等を希望する生徒はB課程、一般就労または進学等を希望する生徒はC課程に所属している。農芸班、手工芸班、サービス班、陶芸班には、B・C過程の生徒が所属し、生活班にはA過程の生徒が所属し、計5班に分かれて活動をしている。

農芸班は、1年生5名、2年生7名、3年生5名の17名で構成され、学習内容によってグループのメンバーを替えている。学習内容は畑作業で、農作物の栽培、収穫、包装、販売等に取り組む。農作物の栽培では、鍬やスコップ、耕運機等の道具の安全な使い方を知り適切に扱うとともに、服装を整えることが安全に作業を行う上で大切であることを指導している。肥料作りや栽培について、作物に応じた種まきや管理の仕方、手順を体験的に学習することをおして、生長の喜びを感じるとともに、収穫や販売活動をおして達成感を感じることができている。本時は、種まきの準備の場面で、畝に印を付けることと2～3粒の種を等間隔にまく指導に重点をおいた。単元の目標や、育成を目指す資質・能力、学習計画等は単元シート（資料編「実践資料P49～52」）に示す。

② 事前検討会

[単元シートの使い方について]

単元シートの効果的な使い方について、高等部全体で確認したり意見交換をしたりして理解を深めた。試行錯誤する中、効果的に活用するための意見が多く交わされたことを受け、単元シート中の個別の目標設定と評価の欄を工夫することとした。

[授業について]

単元の目標や育成を目指す資質・能力について、個別の実態を踏まえて具体的な目標設定と手立ての方法を授業者間で協議し、共通理解を図った。生徒の人数が多いC課程に関しては、少ない支援で安全に作業を進めるための効果的な手立てを工夫することができた。

③ 研究授業

A班（1～3年6名）は堆肥作り、B班（1～3年5名）は腐葉土の袋詰め、C班（2、3年6名）は小松菜の種まきを行った、研究授業としては、C班の学習の様子を動画撮影し視聴した。動画の内容は次の通りである。

畝立てをする前に、耕運機を使って肥料と土を混ぜ合わせ、種をまくための土作りを行った。その後、教員の支援を受けながら耕運機で畝立てをした。種まきをするときには、細長い三角柱の教具を用意し、横にして転がすことで一定の間隔を保つことができるようにした。教具の使い方を示範ながら説明した後、生徒が実際に使って土に跡を付けた。横の間隔を揃えるときには、ひもを畝に並行に張ることで生徒が自分たちで適切に種まきの作業を進めることができた。小松菜の種は、とても小さく2～3粒を数えてつまむことが難しい生徒もいたため、ガムテープで接着してから指先でつまむよう助言した。不明な点は、自ら教師に質問して確かめたり作業と一緒に友達と話し合ったりしながら、自分たちで考えて作業を進める様子が見られた。作業に慣れると、少量の種を手の平に取ってから2～3粒を数えるなど自分たちで工夫して取り組みやすい進め方に気付き、それを互いに伝えることでより手早く作業を進めることができるようになった。その後、収穫までの手入れの仕方について教師と確認した。

④ 事後検討会

12月20日に全校で事後検討会を行った。本時につながる前時の様子も動画で紹介し、授業者からの自評を共有し、評価の場面や色々な評価の視点を交えながら本時の授業について意見交換を行った。

事後検討会の主な内容

授業者から自評

- ・三角柱の教具を用意したことで、生徒の興味を引いて作業への意欲を高めることができたと同時に、より効率良く正確に作業を進めることへの意識を高めることができた。
- ・口答指示で作業内容や手順を理解することができる生徒であり、卒業後は一般就労を目指しているので、教師からの指示は端的に行い、必要に応じて生徒が質問したり、相談したりすることで課題解決を図ることができるように留意して指導した。
- ・作業日誌は、主に毎時間の振り返りを行うために活用している。

本時の授業について意見交換

- ・生徒の表情が良く自主的に活動する姿が見られ、とても参考になった。
- ・三角柱の教具の使い方を示範する様子を見て、生徒が実際にきちんと使うことができていた。自分でできるという見通しを持って、積極的に作業に取り組む姿を引き出せている。
- ・作業日誌の記入は、授業の開始時に、その日の目標や解決したい課題を教師と共有することで、より目的意識を持って主体的な学習につなげることができるのではないかと。更に、教師からの評価を得るだけでなく、自己評価する機会にもなる。
- ・じょうろの向きに注意する理由を説明しているのがとても良かった。種を数えるときにも、どうして3個ずつなのかを説明すると良いと思った。
- ・作業をする生徒たちの顔が生き生きしているのが、毎日良い積み重ねが出来ているのだと思う。種まきをするための教具は、良い工夫です。縦と横の間が丁度良く、あつという間に印を付けることができていました。生徒同士が相談しながら取り組む場面も設定されており、協力して取り組む力も養えると思った。
- ・効率の良い作業工程をねらいとした小松菜の種まき用の教具がとても素晴らしい。

- ・畝の高さと幅が分かるようにひもを張る、種まきのくぼみを等間隔で付けるための教具を使うなど、教師の支援を減らし生徒達の力だけでできる工夫がたくさん見られ、素晴らしいと思った。今後、小学部でも参考にしていきたい。
- ・T1の話聞いて理解する力や細かい作業を根気強くやっていることがすごいと思った。高等部卒業後の就職に向けてこのような力を付けていかななくてはと思った。
- ・落ち着いて作業に取り組む姿、「お願いします。」等のあいさつをしっかりと行っている姿に感心し、初めて高等部の作業学習の様子を見て今後に生かしたいと思った。
- ・耕運機や鍬の使い方を安全に使用するために、どう注意したら良いのか、丁寧に説明をしていて良かった。

(3) 学部実践のまとめ (成果○、課題▲)

単元シートを活用した実践の成果と課題を以下のとおりまとめる。

- 単元シートの工夫として、高等部で使っている単元計画の様式に評価計画と個人の評価及びメモ欄を追加し、単元シートの内容を押さえながら、より使いやすい独自の様式を工夫し、活用することができた。(図2)
- 各学部の授業実践を参観し合うことで、学習評価の場面や方法について学びを深める事ができた。また、学習評価場面を想定した活動の設定や支援方法についても検討することができた。
- 小学部、中学部、高等部の切れ目のない指導を意識し、参考になる点や共通で指導している内容があることに気付くことができた。そこに焦点を当てて、就労を意識した支援を更に積み上げる必要があることが分かった。

指導形態名				題材・単元名				
題材・単元の目 標								
知								
思								
主								
指導期間	場所	時数	T1					
日時	活動内容					評価計画		
						知	思	主
<単元の反省>								
個	目 標			評価・メモ				
A	知							
	思							
	主							
学 習 評 価	知							
	思							
	主							

図2 高等部で工夫した単元シート

- ▲自分で考えて作業に取り組むことができる機会を設定することや、日誌の記入をとおして自分の目標を明確にして自己評価する場面を意図的に用意することを意識して授業づくりをしたい。

VI-Ⅱ 校内研修・調査分析・環境整備 (研究部)

1 校内研修

(1) 今年度の取組について (研修① 5月8日 第1回研究全体会)

昨年度の成果と課題を確認し、教員一人一人が授業実践に参加することについて確認した。
(資料編「研究通信 No.1」)

(2) 学習評価の捉え (研修② 6月13日)

単元シートの効果的な活用に向けて、学習指導要領に示された学習評価に関する内容を確認するとともに、昨年度の本校での取組例を共有した。

(3) 研修授業事前検討会 (教務部と連携 7月20日、8月21日)

9月27日の指導主事学校訪問に伴う学習指導案の作成に当たり、3学部合同で事前検討会を行った。(資料編「研究通信 No. 3~5、8」)

(4) 研究のまとめと共有 (研修⑧ 2月29日 第2回研究全体会)

各学部の研究授業や単元シートを活用した実践、意識調査の結果などを整理したスライドを作成し、他の学部に発表することで学部研究について全体で共有した(図2~4)。また、今年度の研究のまとめと次年度の研究の方向性について確認した。



図3 小学部の発表



図4 中学部の発表



図5 高等部の発表

2 意識調査 (単元の指導に当たる教員対象)

(1) 目的

各教科等の育成を目指す資質・能力を目指した学習評価の関する教員の意識を調査・分析することで、学習評価を行う際の単元シートの有用性の検証や校内研究の推進のための参考とする。

(2) 実施期間と対象者数 (学習指導に当たる教員対象)

事前調査 (n=70) :5月17日~5月31日、対象者70人、回収率100%

(資料編「研究通信No.2」)

事後調査 (n=71) :12月7日~12月19日、対象者71人、回収率100%

(資料編「研究通信No.13」)

(3) 設問ごとの調査結果と考察 (資料編「意識調査用紙(事後調査)」)

事前及び事後調査の結果の比較と考察を以下に示す。

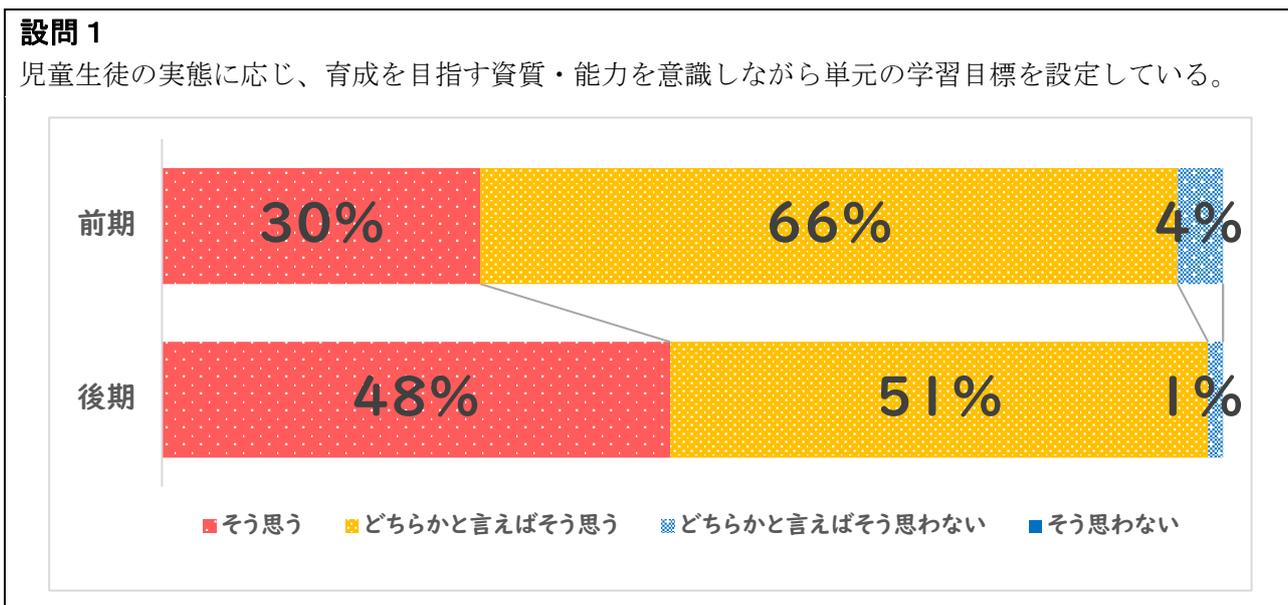


図6 設問1:事前調査と事後調査の比較

<考察>

事前調査と事後調査を比較すると、「そう思う」の回答が増え、ほとんどの教員が肯定的な回答をした。本校では、これまでの校内研究の取組を通して、育成を目指す資質・能力を意識して授業

計画を立てるといふ考え方が浸透してきている。自由記述欄には、「学習評価を充実させるためには、育てる児童の姿を明確にすることが大事だと学んだ。」や「目標と評価のつながりをより意識して授業作りを行うことができてきたように感じる。」などの記述があった。これらのことから、育成を目指す資質・能力を意識しながら単元の学習目標を設定することができたと感じた教員が増えたと言える。

一方で、「ねらいから具体化した個人の目標の立て方と見立て方について、いろいろな先生の話聞いてみたい。」や「単元シートを活用して実態に応じた目標を立てることは、学部や集団によっては、時間対効果という面で効果的ではないかもしれない。」など、児童生徒の実態に応じた学習目標の設定の仕方についての意見が見られた。校内研修や研究通信などにより、児童生徒の実態に応じた目標設定をしている実践を共有したり、事前・事後検討会で学習目標の設定を話し合いのテーマとして取り上げたりしていくことが必要だと考えられる。

設問 2

児童生徒の実態に応じて学習評価を行うために、評価する場面や方法を明確にして授業実践している。

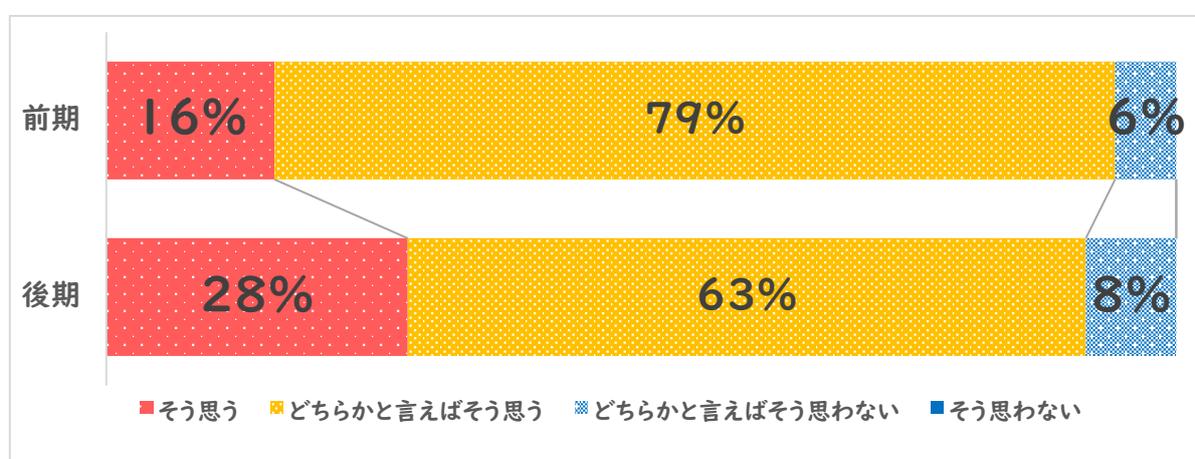


図7 設問2:事前調査と事後調査の比較

<考察>

事前調査と事後調査を比較すると、「そう思う」の回答は増加したが、全体としては肯定的な回答が僅かに減少した。自由記述欄には、「日々積み重ねている実践の中に、色々な学習評価の視点や見取りの観点などのエッセンスが含まれていると思います。それを共有したり、深めたりする研究になっていけば良いと感じます。」や「高等部で使っている授業計画の様式で単元シートを作っていたが、以前よりもシートが書きやすくなったと感じました。ただ、授業シート、単元シートを通して生徒の評価のしやすさにつながっている感じはあまり実感できませんでした。」などの記述があった。授業研究においても、どの教員も形成的評価を行いながら児童生徒に支援をしているが、具体的な評価の方法や場面などが単元シートに記入されている実践はほとんどなかった。これらのことから、普段から取り組んでいる学習評価の実践を意味付け、それを評価計画や評価のポイントといった形で明確にしていくことが必要だと考えられる。

設問3

児童生徒一人一人の学習状況を把握した上で、学習評価したことを指導改善に生かしている。

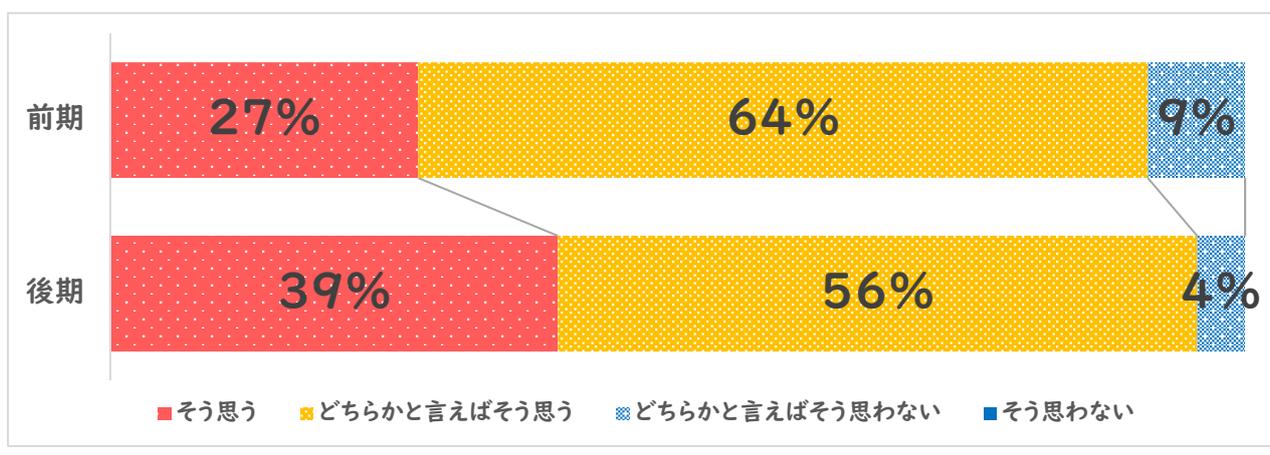


図8 設問3:事前調査と事後調査の比較

<考察>

事前調査と事後調査を比較すると、「そう思う」の回答が増え、肯定的な回答が増えた。自由記述欄には「授業は、やって終わりではなく、しっかりと評価をして次に生かすことが大事なのだと改めて感じました。」や「授業をやりっぱなしにしない、PDCAサイクルを回すための評価の活用を意識しながら授業に取り組もうとする意識がこの2年で高まりました。」、「単元シートを使った授業に取り組み、授業時数の在り方や生徒への必要な手立てを確認することができました。」などの記述があった。これらのことから、学習評価したことを指導改善に生かしていると感じた教員が増えたと言える。

一方で、「評価を次の学習場面に生かすという意識がなかなかもてないまま過ごしてきてしまっています。」といった記述もあり、学習評価したことを指導改善に生かす方法について、効果的な実践を共有することが必要だと考えられる。

設問4

児童生徒の学びの姿や学習評価の記録を教員間で共有している。

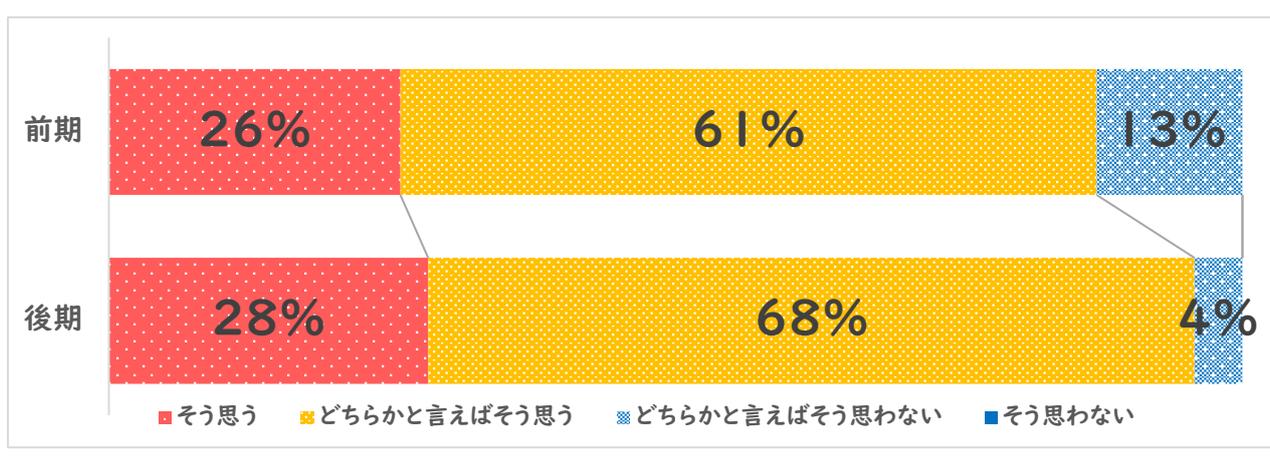


図9 設問4:事前調査と事後調査の比較

<考察>

事前調査と事後調査を比較すると、肯定的な回答が増え、「どちらかといえばそう思わない」の回答も減少した。自由記述欄には「グループでの学習で多数の生徒の目標や支援方法を確認することに助かっています。また、見やすいです。」や「TTの連携の重要性が再確認できた。」といっ

た記述があった。これらのことから、単元シートを活用することを通して、単元の指導についての反省を教員間で共有する意識が高まったと言える。

設問5

学習評価を行う上で不安を感じている内容があれば選択してください。（複数回答可）

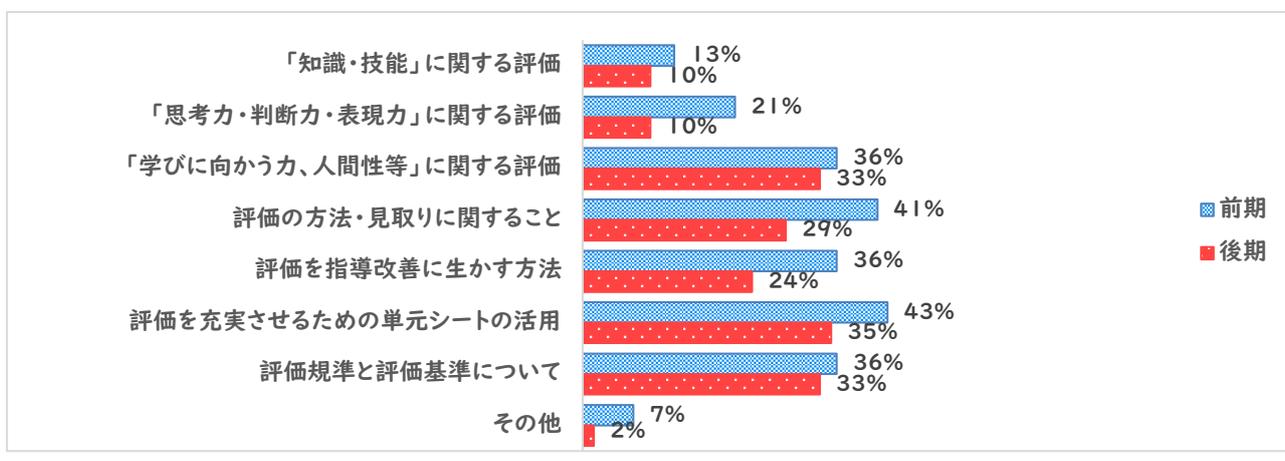


図10 設問5:事前調査と事後調査の比較

<考察>

事前調査と事後調査を比較すると、全ての項目で不安を感じている回答が減った。特に、「『思考力・判断力・表現力』に関する評価」と「評価の見取りに関すること」、「評価を指導改善に生かす方法」については、前期よりも後期の回答数が大きく下回った。自由記述欄には「単元シートの作り方が分かってきて、目標設定の仕方や、どのように授業を進め、評価をしていくか見通しをもって取り組めるようになってきました。」や「単元ごとに単元シートを作成することは確かに大変ではあるが、作成することによって教師側の思考を整理することになっていると思うので、必要な工程だと思う。」といった記述があった。これらのことから、単元シートを活用した授業を行うことにより、学習評価への不安感を減らすことができたと言える。

一方で、不安感があまり変わらない項目である「『学びに向かう力、人間性等』に関する評価」や「評価を充実させるための単元シートの活用」、「評価規準と評価基準について」に関しては、校内研修や研究通信などにより、教員の理解を深めていくことが必要だと考えられる。

(4) 意識調査の考察

設問1から設問4の結果を見ると、事前調査と事後調査を比較するとほとんどの設問について肯定的な回答が増えており、学習評価への不安感も少なくなっていることが分かった。単元シートを活用することで、学習評価を意識した授業作りへの理解が深まったことが要因として考えられる。これらのことから、学習評価を充実させる上で、単元シートは効果的な手段であると言える。

一方で、学習評価の方法に関する理解の不十分さや単元シート作成の負担を感じている教員がいることも分かった。自由記述では、「単元シートを活用した授業実践が定着してきているのを感じるが、作成時間が少しでも短縮できると良い。」や「研究授業では、単元シートを全て検討するが、普段はできないのが現状。現状を考え、これまでのA4版の題材・単元指導計画でも十分ではないか。」などの記述があった。今後は、単元シートの効果的・効率的な活用方法を検討していくことが必要であると考えられる。

また、自由記述欄には学部間の参観授業についての記述が多数見られた。今年度の反省を生かし、来年度の校内研究を推進していきたい。

3 授業実践の資料や計画の共有

教員が実践にあたり作成した単元シートや授業シートは、校務システムを活用して共有した。また、研究授業の様子や参観した教員の感想等を研究通信にまとめて共有することで、全員が実践に取り組む雰囲気を醸成するよう努めた。また、参観体制の調整が難しい場合も考慮して、研究授業の様子をライブで視聴できるモニターを校内各所に設置したり、録画した映像を視聴する時間を設けたりして、多くの教員が実践を共有することができるよう工夫した。特に、小学部訪問学級の授業を全校の研究授業として設定し、学習の様子を動画で視聴したことは、学習評価の見取りを共有するのみならず、適切な実態把握に基づく目標設定の大切さを改めて認識する機会となった。

4 環境の整備

職員用掲示板（図8）や資料コーナー（図9）の整備を行い、教員が校内研究の取組に触れる機会を多く持てるようにした。



図 11 研究構想図や研究通信などを共有



図 12 書籍や公開研究会の案内などを閲覧できるようにした資料コーナー

5 研究通信の発行

単元シートを活用した実践の共有や研究を進める上での情報発信を目的に研究通信を作成した。発行した研究通信の主な内容は以下のとおりである。なお、本研究紀要の資料として、研究通信を添付する。

No.	発行日	主な内容	No.	発行日	主な内容
1	5月16日	第1回研究全体会の振り返り	8	8月21日	規準と基準について
2	6月14日	第1回意識調査の結果報告	9	10月11日	指導主事訪問の振り返り(小)
3	8月4日	中学部指導案検討会のまとめ①	10	10月16日	指導主事訪問の振り返り①(中)
4	8月7日	中学部指導案検討会のまとめ②	11	10月18日	指導主事訪問の振り返り②(中)
5	8月8日	中学部指導案検討会のまとめ③	12	11月27日	全校研究(小)のまとめ
6	8月9日	中(自活)研究授業のまとめ	13	1月12日	第2回意識調査の結果報告
7	8月10日	学習評価について			

Ⅶ 研究のまとめ

校内研究の主な成果と課題は以下のとおりである。

1 成果

- (1) 単元や題材の指導に当たる全ての教員が単元シートを活用した授業実践に参加することができた。また、実践した上で感じた単元シートの効果や疑問点などを、研究授業の検討会及び研究通信や学部研究の共有を目的として発表することができた。

- (2) 校務システムを活用して日々の実践を共有したり、研究通信や職員掲示板を活用して情報を共有したりしたことで、研究テーマを意識して日々の授業実践に取り組むことができる環境づくりができた。
- (3) 多くの教員が単元シートによって、各教科等の育成を目指す資質・能力を踏まえて授業実践を行い、学習評価までを記録・分析する意識が高まっていることが、意識調査などから分かった。また、単元シートの形式を一部変更することでより活用しやすくなり、研究授業のみならず日常的に単元シートを活用して授業づくりや評価の累積を行うことにつながり、学校の教育目標の具現化や教育課程の改善につながる校内研究を進めることができた。
- (4) 研究授業の参観体制を調整するだけでなく、モニターを設置して離れた場所からでも授業の様子を視聴することができるようにしたり、録画した映像を視聴する時間を設けたりしたことで、全員が研究授業に参加する機会を保障することができた。
- (5) 訪問学級での指導を動画で視聴することで、教材準備や提示の仕方、評価の仕方の意図や、工夫点を学ぶ機会となった。研究授業の参観で得られる学びと、動画視聴による学びの違いを実感することができ、今後の研究授業の持ち方について選択肢が広がった。

2 課題

- (1) 単元シート作成に伴う負担感があつた。小・中学部では、研究授業にかかわらず単元シートを作成して教育課程の改善に活用しているが、個別の目標と評価までは必ずしも記入していないため、日常的に活用できる単元シートの様式と、個別の評価の在り方を検討する余地がある。また、高等部では指導の形態が多様であり、単元シートを日常的に作成・活用することには、より負担を感じやすい。研究主題への迫り方を、各学部の実態に合わせて検討したり、学部の枠を越えて意見交換できる研修会等を実施したりすることで、全員で研究に取り組む意識を高めたい。
- (2) 研究授業をとおして意見交換することで育成を目指す資質・能力や、学習評価の方法について少しずつ理解を深めることができた一方で、具体的な学習評価の場面や方法については、研修が不足していた。また、研究授業のみならず、普段の授業での評価の充実を目指して授業改善に取り組もうとする本校の教員にとって有効な学習評価の方法については、更に改善を図ることができると考えている。その際、学習過程の工夫をとおして意図的に評価場面を設定するなど、授業改善と合わせて理解を深め、取り組む必要があると感じる。
- (3) 全ての教員が研究授業の実践をすることができたが、研究授業が10～12月に集中し、参観体制を整えることが難しい時期があつた。年間指導計画に沿って授業実践の計画を早い時期に立案し、見通しを持って進めることはできたが、実践数の検討や、研究授業の参観方法の工夫等により、過重な負担とならないよう検討する必要がある。

【主な参考文献】

[1]宮城県立石巻支援学校：「令和4年度研究紀要」	2021
[2]文部科学省：「特別支援学校幼稚園部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」	2017
[3]文部科学省：「文部科学省：特別支援学校高等部学習指導要領」	2019
[4]中央教育審議会：「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」	2018